

1 情勢報告

1 JA土佐くろしお「農家支援会議」対象農家との面談が進められています



面談の様子

JA土佐くろしおの「農家支援会議」では、経営再建農家の経営主・家族と過去3カ年の実績を振り返りながら、経営上の課題を話し合い、改善点と目標を共有しながら経営再建に向けた支援を行っています。

JA営農課の経営担当、地域担当、品目担当と振興センター経営担当、品目担当とで検討した、対象農家ごとの【課題整理・改善の方向】をもとに、順次農家との面談を進めています。

今後は、面談結果をもとに、農家ごとの具体的な経営改善計画書を作成し、定期的に進捗管理しながら、目標達成を支援していきます。

後継者と家族経営協定を調印しました（平成21年8月19日）



中土佐町で調印

「自分が親父の後継者として農業を始めた時は、自由な時間も少なく、しんどかった。子供にはそんな思いはさせたくない。」との経営者の思いから、家族経営協定締結に中土佐町のショウガ農家取り組みました。

協定へ盛り込む内容について助言しながら協定書を作成し、併せて、農業者年金の加入や【保険料の国庫補助対象】の要件をクリアするため、現在の白色申告を青色申告へと変更していくことなどが話し合われました。

JA四万十大野見地区ショウガ研修会・現地検討会が開催されました（平成21年9月11日）

現地検討会の様子
（大野見吉野地区）

JA四万十が委嘱している営農アドバイザーと共に研修会及び現地検討会と個別巡回指導を実施しました。研修会では、今後の栽培管理について振興センターが説明し、現地検討会では、臭化メチル代替実証ほにおいて生育状況について検討したあと部会員のほ場の個別巡回を行いました。

今年は、長雨続きもあり、昨年と比べて根茎腐敗病の発生がやや多く、白星病の発生の多いほ場も見られました。生育については、干ばつ時より回復してはいますが、分けつ数は若干少なめに推移しています。今回の検討会では、土寄せと病害虫防除を徹底していくことが確認されました。

今後は、実証ほの成績をまとめて部会の全体研修会で報告することにより、代替技術の普及推進を図っていきます。

JA津野山ハナニラ研究会現地検討会・研修会が開催されました（平成21年9月17日）

現地検討会の様子
（橋原町大向地区）

フルオープンハウスのモデル農家においてハナニラの栽培管理と生育状況及びフルオープンの効果を確認しました。研修会では、振興センターから、今後の管理作業と倒伏防止用フラワーネットの効果について説明しました。また、実需者（サニーマート・高知青果、大阪中央青果（株）・京都青果卸売（株））との協議結果等を報告し、今後の生産・販売対策の具体的取り組みについて協議しました。

フルオープンハウスは、高温障害が少ないこと、定植本数が多いほど、初期収量が多いことが確認できました。ハナニラは、知名度がまだまだ低いことから（簡単レシピの添付等）、知名度を上げる取り組みを行うことを申し合わせました。

今後は、倒伏防止対策導入定着ほにおいて現地検討会を実施し、倒伏防止効果を確認してもらうことにしています。

芳生野百石営農生産組合が先進事例を調査（平成21年9月7日）



説明の様子

芳生野百石営農生産組合は、将来に向けた勉強のために、農村レストラン「しやえんじり」（四万十町西土佐）を調査しました。

組合長以下8名が参加し、地元の資源（料理の能力、廃止になった保育園、食材）を活かした活動を見聞し、バイキング形式の食事を体験しました。

生産組合の活動は、当面の間は、営農計画を軌道に乗せるため生産基盤・体制の整備に重点を置いたものとなりますが、平行して、地域食材の活用についても学習を積んでいく予定です。

JA津野山ミョウガ部会 目慣らし・勉強会が開催されました（平成21年8月31日）



目慣らし会の様子

ミョウガの目慣らし会を開催し、花蕾の色目・形状を等階級毎に確認し合うとともに、花蕾の腐敗対策についても検討しました。現在の収穫花蕾の品質は非常に良く、花蕾腐敗も減少してきているようです。

勉強会では、「今年の特徴と栽培管理との関係」、「立茎本数に関する実証ほの生育概要」、「かん水・給液管理やハウス内加温等の今後の管理」について検討しました。今年の作柄は、定植後の曇雨天や梅雨明けの遅れ等により、収穫の遅れや収量低下が懸念されていましたが、8月末までの出荷量は昨年と140%程度となっています。

JA土佐くろしおピーマン部会でIPM技術の勉強会が開催されました（平成21年9月8日）



IPM実証ほにおける天敵放飼

今年、新たに市販され、アザミウマ類、コナジラミ類防除に効果が高いと言われる天敵昆虫「スワルスキーカブリダニ」の生理・生態や利用方法等について勉強会を実施しました。天敵昆虫の組み立てや放飼時期等について活発な意見交換が行われました。

これまで、須崎地区ではピーマン類における天敵利用に失敗事例が多く、安定した天敵活用ができていませんでした。そこで、22園芸年度には、害虫のハウス内への侵入を極力抑えるため、開口部全てへの防虫ネットの設置を基本とし、新しい天敵「スワルスキーカブリダニ」を中心とした害虫防除体系と、黒枯病、うどんこ病等の、病害対策をあわせた、総合的な病虫害防除技術の実証ほを設置して検討していくこととなりました。

2 今後の普及活動の動き

須崎農業振興センター農業改良普及課
(連絡先：0889-42-3255)

時期	タイトル	内容	備考
9月25日	津野町認定農業者(3年目・再認定)フォローアップ巡回	関係機関で3年目の認定農業者の意識付けと再認定者の申請書の内容を協議。	
10月5日	JA津野山ショウガ現地検討会	今後の栽培管理について	
10月8日	営農みらい塾運営協議会	今後の受入体制等について協議	
10月10日	新嘗祭献穀田抜穂式	献穀田(中土佐町大野見)で稲刈りの儀式である抜穂式を行う。	